

令和6年

岡山県の交通事故

交通事故発生状況

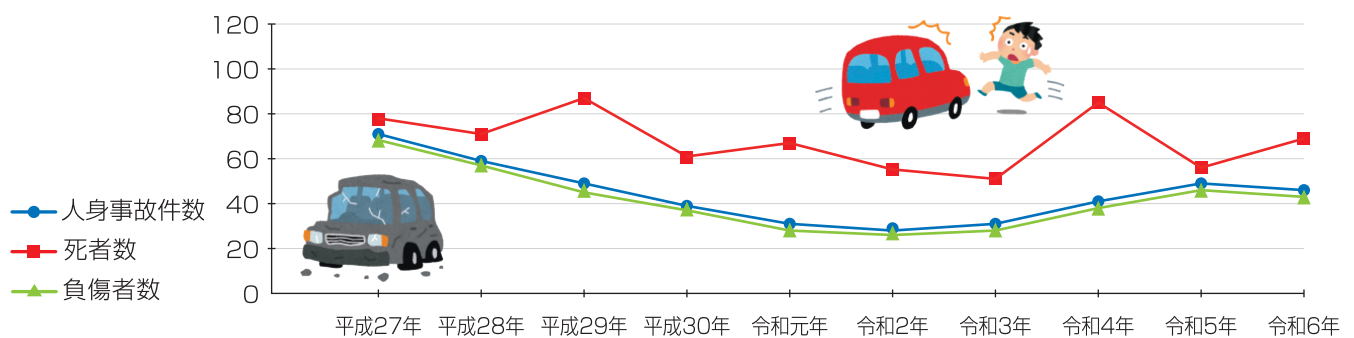
区 分	総事故 件数	人 身 事 故				物損事故 件数
		発生件数	うち死亡事故		負傷者数	
			件 数	死者数		
令和6年	50,282	4,869	58	60	5,489	45,413
令和5年	50,713	5,161	49	49	5,816	45,552
増減数	－431	－292	9	11	－327	－139
増減率	－0.8	－5.7	18.4	22.4	－5.6	－0.3

※ 増減は、前年との対比(以下同じ)

月別発生状況(死者数)

区 分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
令和6年	3	6	1	5	5	1	5	7	7	6	7	7	60
令和5年	3	3	5	2	2	2	4	8	4	7	4	5	49
増減数	0	3	-4	3	3	-1	1	-1	3	-1	3	2	11

死傷者数・人身事故件数の推移(指数)



区 分	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
人身事故件数	10,627	8,930	7,220	5,902	4,690	4,288	4,683	4,348	5,161	4,869
指数	100	84	68	56	44	40	44	41	49	46
死者数	87	79	97	68	75	62	57	74	49	60
指数	100	91	111	78	86	71	66	85	56	69
負傷者数	12,686	10,654	8,465	6,873	5,315	4,840	5,239	4,855	5,816	5,489
指数	100	84	67	54	42	38	41	38	46	43

飲酒運転による事故

発生状況

区 分	人身事故件数	死者数	負傷者数	重 傷	軽 傷
令和6年	47	6	53	7	46
令和5年	43	3	48	10	38
増減数	4	3	5	-3	8
増減率	9.3	100.0	10.4	-30.0	21.1

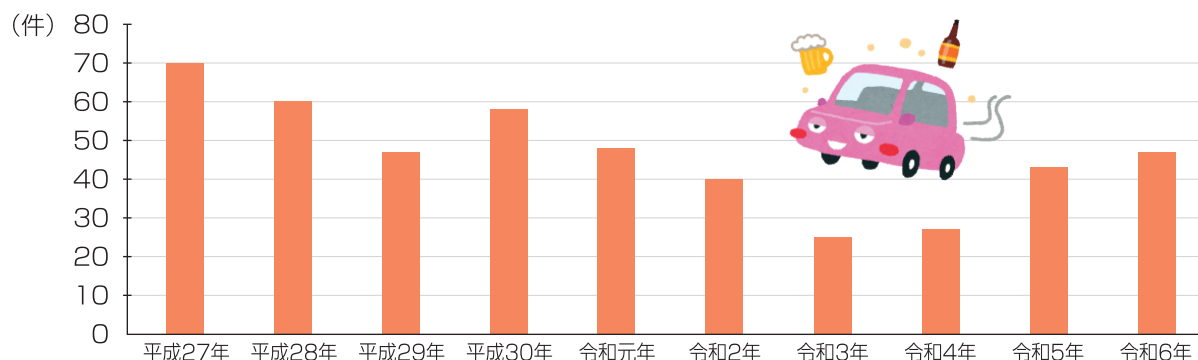
※ 件数は原付以上の第1当事者の飲酒運転(酒酔い、酒気帯び運転)による事故件数、死傷者数はその事故による死傷者数をいう。

○ 飲酒運転による人身事故の件数は4件増加し、死者数及び負傷者数は増加した。

月別(件数)

区 分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
令和6年	4	2	3	3	6	7	3	2	4	2	4	7	47
令和5年	2	1	2	3	2	5	5	1	3	5	6	8	43
増減数	2	1	1	0	4	2	-2	1	1	-3	-2	-1	4

年別推移(件数)



※ ()内は、死亡事故の件数を内数で示す。

○ 飲酒運転による事故は減少傾向にあったが、令和4年から増加傾向にある。

ながらスマホによる事故

発生状況

区 分	人身事故件数	死者数	負傷者数	重 傷	軽 傷
令和6年	31 (7)	0 (0)	39 (7)	6 (4)	33 (3)
令和5年	36 (6)	0 (0)	44 (6)	8 (0)	36 (6)
増減数	-5 (1)	0 (-)	-5 (1)	-2 (4)	-3 (-3)
増減率	-13.9 (16.7)	0.0 (-)	-11.4 (16.7)	-25.0 (-)	-8.3 (-50.0)

※ ()内は、自転車乗用中の使用を内数で示す。

死亡事故の分析

死亡事故の主な特徴

- 交通事故死者は60人（前年比+11人）
- 高齢者死者は37人（前年比+8人）で、構成率は6割超
- 四輪乗車中死者は22人（前年比+2人）、シートベルト非着用者は14人
- 自転車乗用中死者は11人（前年比+5人）、ヘルメット非着用者は8人
- 歩行者死者は18人（前年比+2人）で、6割以上の12人が道路横断中

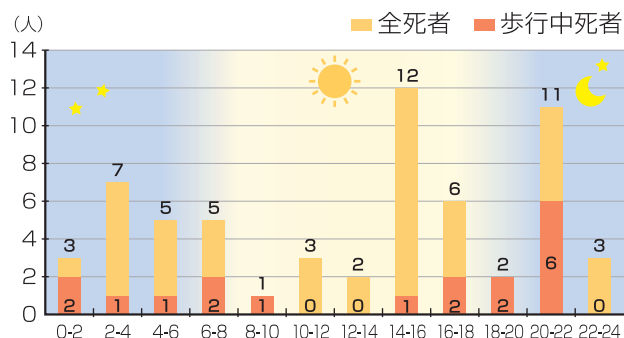
全国での位置づけ

区 分	全 国	中 国 地 方					合 計
		岡 山	広 島	山 口	島 根	鳥 取	
死者数	2,663	60	68	51	9	15	203
増減数	-15	11	-10	16	-13	1	5
人口10万人あたり	2.14	3.25	2.48	3.93	1.38	2.79	-
全国ワースト順位		13	28	3	45	22	

○ 岡山県の人口10万人当たりの死者数は3.25人で全国ワースト13位

1 いつ

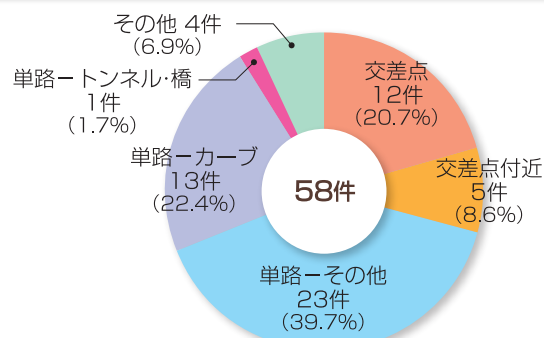
■ 時間帯別(死者数)



○ 死者は、14～16時、20時～22時が多い。

2 どこで

■ 道路形状別(件数)

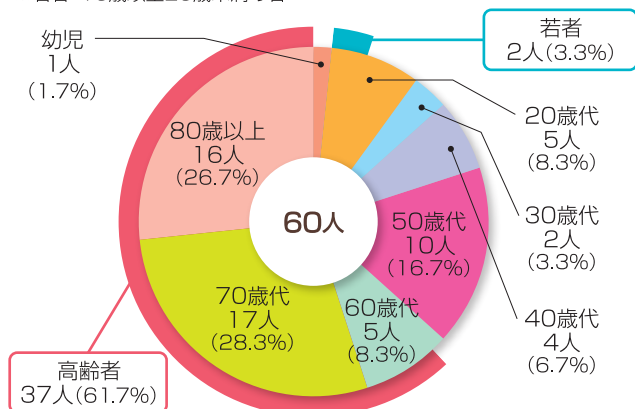


○ 単路で6割以上を占める。

3 だれが

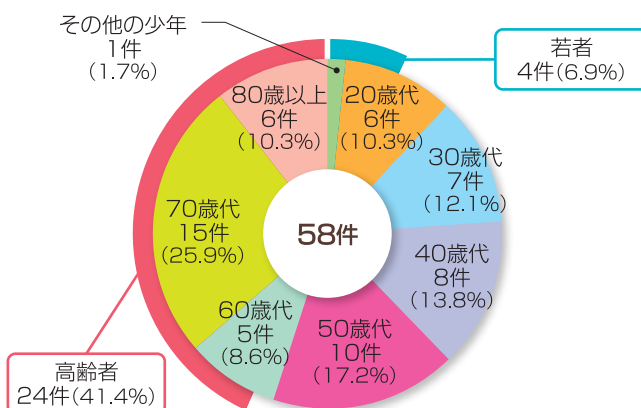
■ 死者の年齢層別(死者数)

※若者：16歳以上25歳未満の者



○ 70歳代が最も多く、次に80歳以上が多い。

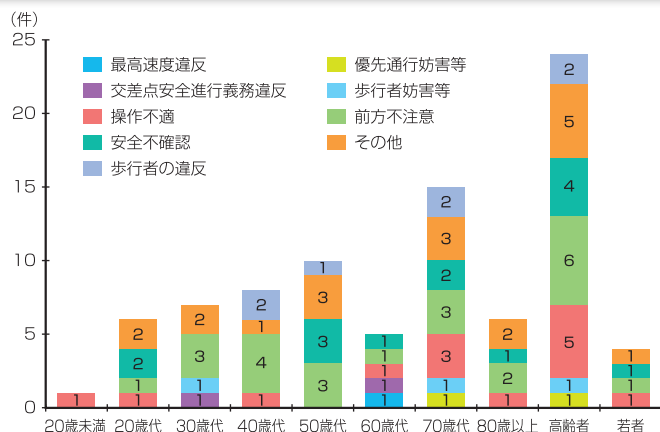
■ 第1当事者の年齢層別(件数)



○ 70歳代が最も多い。

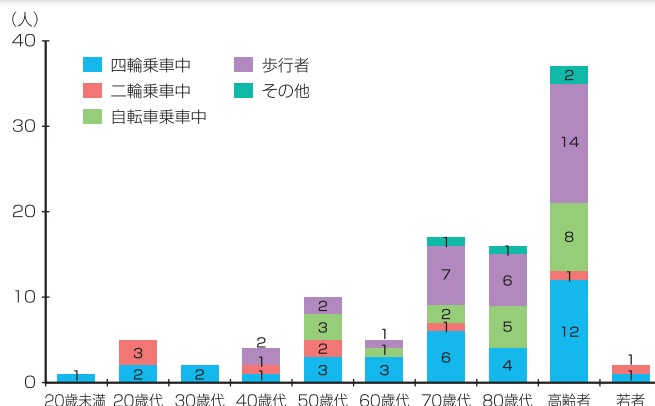
4 どんな原因で

第1当事者の違反別・年齢層別(件数)



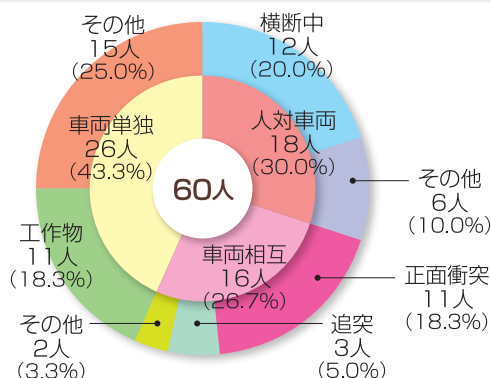
5 どのように

状態別・年齢層別(死者数)



6 どんな事故で

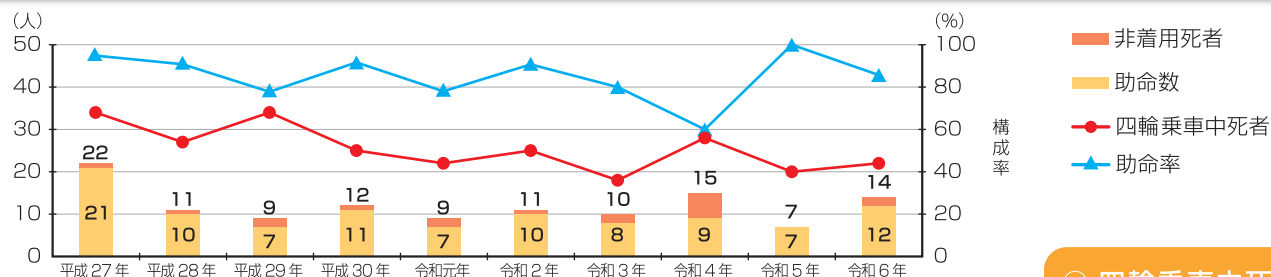
事故類型別(死者数)



- 死者の6割以上は、車両単独や正面衝突及び追突といった一方的過失の事故によるもの。
- 人対車両の事故による死者のうち、薄暮・夜間の死者は15人(構成率83.3%)
そのうち、夜光反射材等を着用していた人は1人(着用率6.7%)
- 右から左への横断中の事故が半数を占める。

7 シートベルトは

四輪乗車中の死者とシートベルト着用状況



区分	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
シートベルト着用率※1	98.0	98.8	98.4	98.2	98.6	98.5	99.1	98.6	99.0	99.0
四輪乗車中死者※2	34	27	33	25	22	25	18	28	20	22
着用死者	12	16	22	10	10	13	6	13	13	8
着用率	35.3	59.3	66.7	40.0	45.5	52.0	33.3	46.4	65.0	36.4
非着用死者	22	11	9	12	9	11	10	15	7	14
助命数	21	10	7	11	7	10	8	9	7	12
助命率	95.5	90.9	77.8	91.7	77.8	90.9	80.0	60.0	100.0	85.7
不明	0	0	2	3	3	1	2	0	0	0

※1 一般道路の運転者。警察庁とJAFの合同調査による。

※2 運転者及び同乗者を含み、シートベルト及びチャイルドシートを含む。

- 四輪乗車中死者22人のうち14人がシートベルト非着用
- シートベルト非着用者14人のうち、12人がシートベルトを着用していれば助かったと考えられる。(助命率85.7%)

高齢者の事故

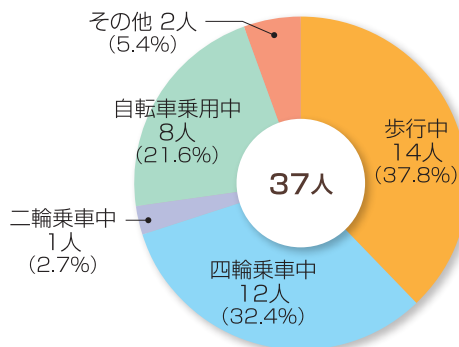
■ 状態別(死者数)

令和6年中 全死者60人 うち高齢者死者37人(構成率61.7%)

区 分	歩行中	四輪乗車中	二輪乗車中	自転車乗車中	その他	合 計
死者数	14	12	1	8	2	37
うち薄暮～夜間	11	3	1	4	0	19
構成率	78.6	25.0	100.0	50.0	0.0	51.4

※ 構成率は、状態別死者数のうち薄暮～夜間の占める率をいう。
(薄暮時間帯…日の入りの前後1時間)

- 歩行者死者14人のうち11人が薄暮・夜間の死者で、夜光反射材等を着用していたのは、そのうち1人のみであった。



■ 死亡事故の状態別、原因別(第1当事者件数)

区 分	歩行中	四輪	二輪	自転車	その他	合 計
車両の違反	最高速度違反	0	0	0	0	0
	追越し違反	0	0	0	0	0
	優先通行妨害等	0	1	0	0	1
	一時不停止	0	0	0	0	0
	操作不適	0	2	0	2	5
	前方不注意	0	3	0	3	6
	安全不確認	0	2	1	1	4
	その他	0	5	0	0	6
	合計	0	13	1	6	24
歩行者の違反	信号無視	1	0	0	0	1
	横断歩道外	1	0	0	0	1
	その他	0	0	0	0	0
合 計	2	13	1	6	2	24

- 高齢者が第1当事者となった死亡事故は24件で、うち19件で高齢者自身が死亡。

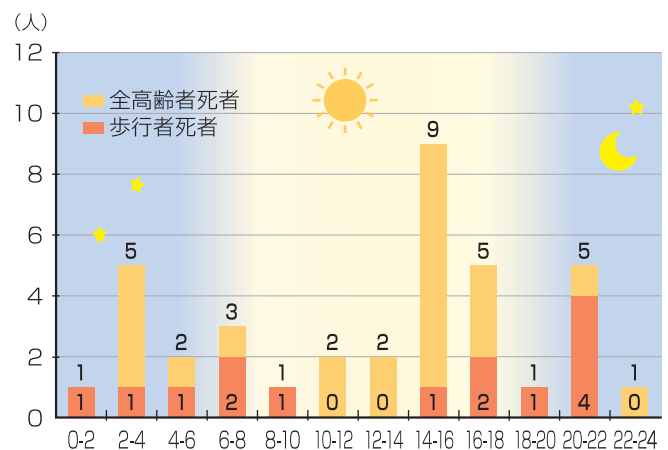
■ 自宅からの距離別死者数(自転車・歩行者)

() 内は、歩行者数を内数で示す。



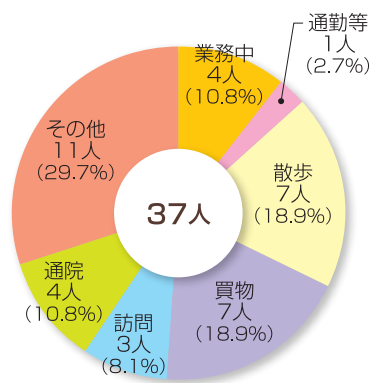
計22人(14人)

■ 時間帯別(死者数)



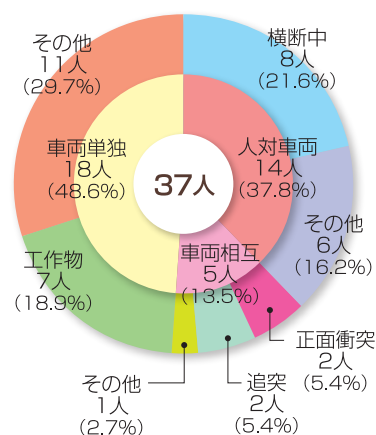
- 全高齢者死者は、14～16時の時間帯に多い。

■ 通行目的別死者数



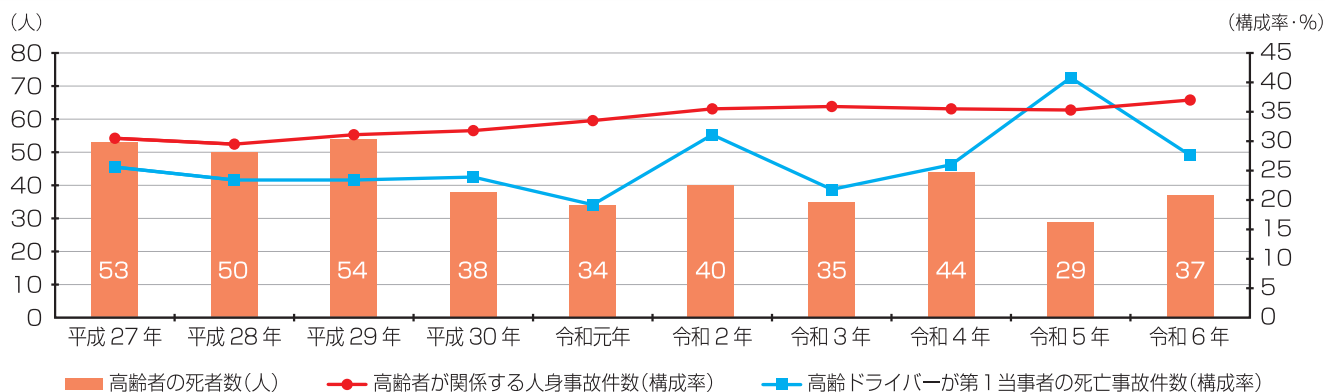
業務中	通勤等
4	1
散歩	観光・娯楽
7	0
買物	訪問
7	3
通院	その他
4	11
計	
37	

■ 事故類型別死者数



事故類型	死者数
人対車両	横断中 8
	その他 6
	計 14
車両相互	正面衝突 2
	追突 2
	出合頭 0
	その他 1
	計 5
車両単独	工作物 7
	その他 11
	計 18
踏切	0
合計	37

■ 高齢者の交通事故の推移

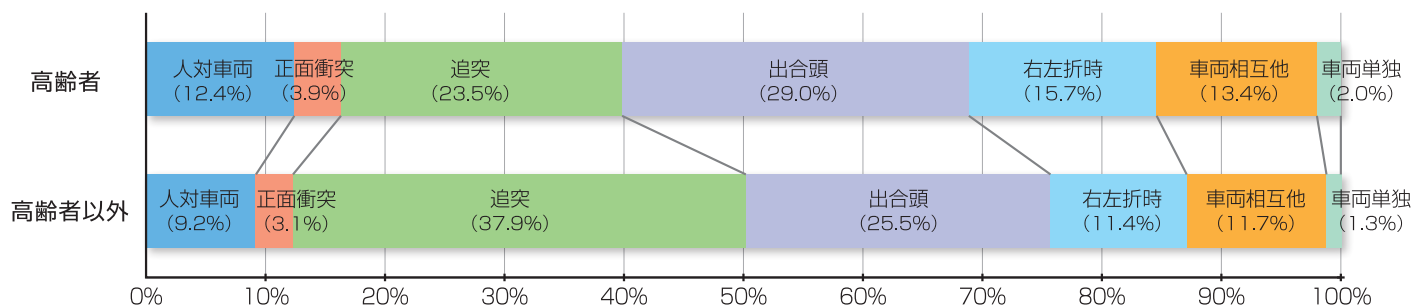


※高齢ドライバーは、原付以上の運転者。 ※構成率は、全人身事故及び全死者に占める割合をいう。 ※運転免許人口は各年12月末現在の資料による。

- 高齢者が関係する人身事故件数は前年より減少したものの、構成率は増加傾向にある。
- 高齢者死者は前年より8人増加し、構成率も3年ぶりに6割を超えた。

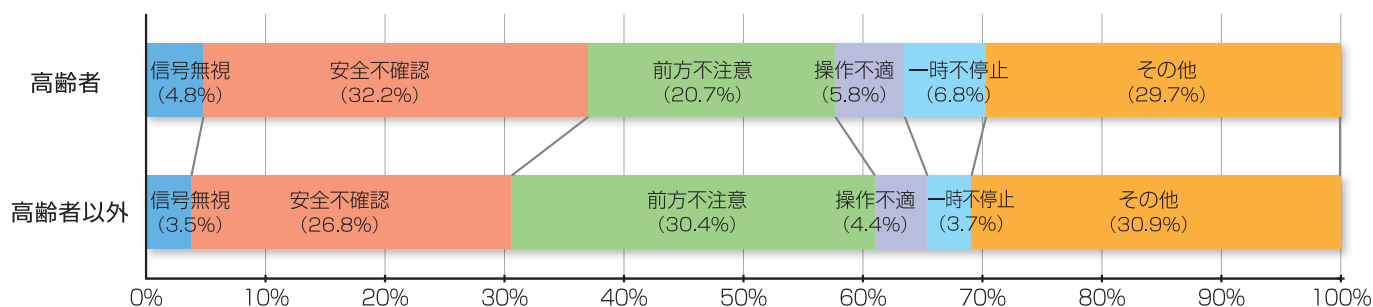
■ 高齢ドライバー(原付以上)が第1当事者となる事故

事故類型別



- 高齢者以外では追突が最も多いが、高齢者では出合頭が最も多い。

違反別



- 高齢者以外では前方不注意が最も多いが、高齢者では安全不確認が最も多い。

自転車の事故

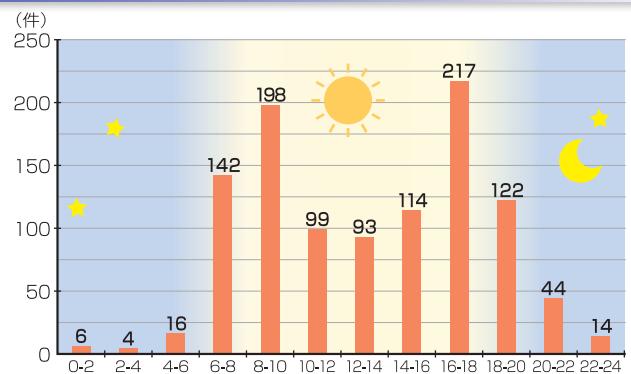
発生状況

区 分	人身事故 件数	死者数	負傷 者数		
				重 傷	軽 傷
令和6年	1,069	11	1,048	147	901
令和5年	1,146	6	1,134	172	962
増減数	-77	5	-86	-25	-61
増減率	-6.7	83.3	-7.6	-14.5	-6.3

※件数は自転車の関係した事故件数、死傷者数は自身の被害をいう。

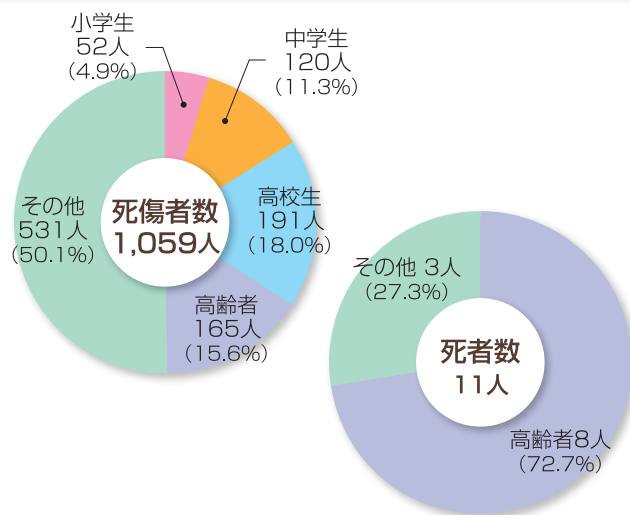
○ 人身事故件数及び負傷者数は減少したが、死者数は増加。

時間帯別(件数)



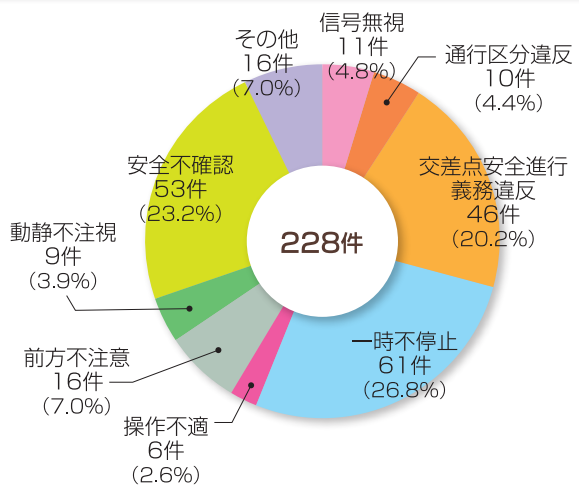
○ 8時～10時、16時～18時に多発している。

年齢層別(死傷者数・死者数)



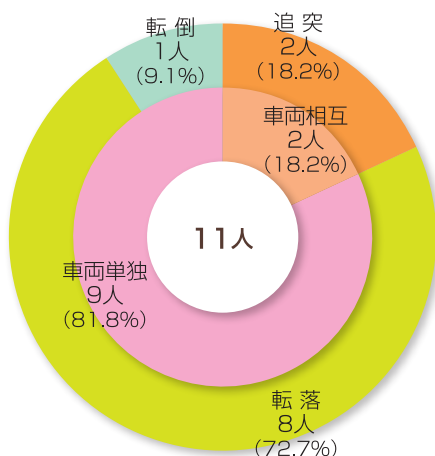
○ 死者数は、高齢者が7割以上を占める。

違反別(自転車第1当事者)



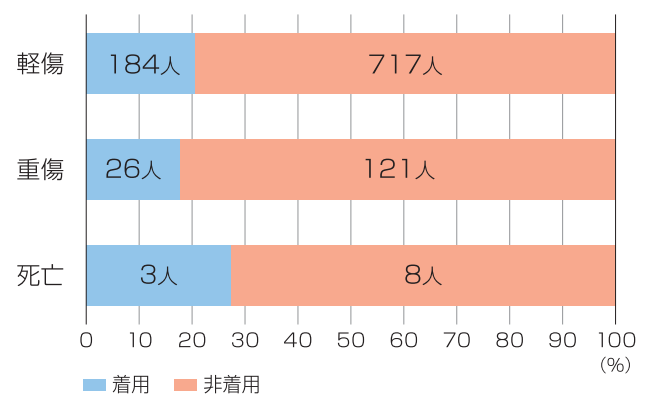
○ 一時不停止が最も多く、次に、安全不確認が多い。

事故類型別(死者数)



- 自転車乗用中死者11人のうち9人が車両単独事故
- 用水路等への転落死者は7人

自転車乗用中の死傷者のヘルメット着用状況(人)



- 自転車乗用中の負傷者のうち、ヘルメットを着用していたのは約2割
- 自転車乗用中の死者は、8人がヘルメット非着用

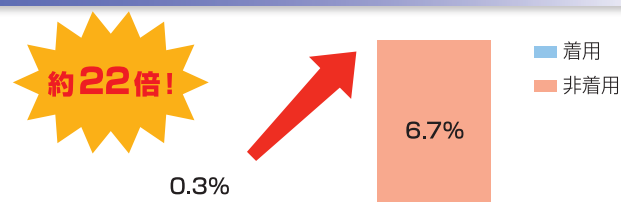
市町村別発生状況

令和6年1月1日～令和6年12月31日

市町村	人身事故件数			死 者 数			重 傷 者 数			軽 傷 者 数			負 傷 者 計		
	令和6年	令和5年	増減数	令和6年	令和5年	増減数	令和6年	令和5年	増減数	令和6年	令和5年	増減数	令和6年	令和5年	増減数
岡山市	(9) 2,289	(9) 2,382	-93	20	14	6	248	(1) 236	(-1) 12	(10) 2,281	(10) 2,444	-163	(10) 2,529	(11) 2,680	(-1) -151
北区	(9) 1,125	(8) 1,105	(1) 20	9	5	4	128	(1) 104	(-1) 24	(10) 1,116	(9) 1,146	(1) -30	(10) 1,244	(10) 1,250	-6
中区	449	448	1	2	2	0	42	45	-3	441	440	1	483	485	-2
東区	190	(1) 247	(-1) -57	4	1	3	23	33	-10	201	(1) 251	(-1) -50	224	(1) 284	(-1) -60
南区	525	582	-57	5	6	-1	55	54	1	523	607	-84	578	661	-83
倉敷市	(12) 1,404	(18) 1,478	(-6) -74	14	7	7	(2) 191	(1) 177	(1) 14	(12) 1,413	(19) 1,486	(-7) -73	(14) 1,604	(20) 1,663	(-6) -59
津山市	167	(2) 224	(-2) -57	1	4	-3	19	(1) 39	(-1) -20	164	(1) 204	(-1) -40	183	(2) 243	(-2) -60
玉野市	131	123	8	2	0	2	23	14	9	131	139	-8	154	153	1
笠岡市	(4) 100	(8) 99	(-4) 1	0	(1) 2	(-1) -2	(1) 12	(1) 21	-9	(6) 109	(10) 93	(-4) 16	(7) 121	(11) 114	(-4) 7
井原市	51	57	-6	1	1	0	11	18	-7	42	50	-8	53	68	-15
総社市	152	(1) 182	(-1) -30	1	2	-1	11	29	-18	159	(1) 171	(-1) -12	170	(1) 200	(-1) -30
高梁市	32	41	-9	3	2	1	1	9	-8	34	35	-1	35	44	-9
新見市	35	(2) 49	(-2) -14	1	(1) 2	(-1) -1	5	(1) 7	(-1) -2	32	48	-16	37	(1) 55	(-1) -18
備前市	(6) 46	(1) 41	(5) 5	0	0	0	(4) 10	8	(4) 2	(5) 49	(1) 35	(4) 14	(9) 59	(1) 43	(8) 16
瀬戸内市	46	51	-5	5	1	4	6	9	-3	45	45	0	51	54	-3
赤磐市	(8) 75	(6) 89	(2) -14	2	2	0	(1) 11	24	(1) -13	(11) 82	(8) 77	(3) 5	(12) 93	(8) 101	(4) -8
真庭市	(3) 40	(1) 46	(2) -6	4	2	2	2	10	-8	(4) 42	(1) 38	(3) 4	(4) 44	(1) 48	(3) -4
美作市	(1) 24	(2) 27	(-1) -3	2	2	0	4	(1) 7	(-1) -3	(1) 26	(1) 19	7	(1) 30	(2) 26	(-1) 4
浅口市	(3) 67	(5) 59	(-2) 8	1	1	0	10	3	7	(7) 72	(11) 65	(-4) 7	(7) 82	(11) 68	(-4) 14
小計	(46) 4,659	(55) 4,948	(-9) -289	57	(2) 42	(-2) 15	(8) 564	(6) 611	(2) -47	(56) 4,681	(63) 4,949	(-7) -268	(64) 5,245	(69) 5,560	(-5) -315
和気町	(2) 21	(2) 27	-6	1	1	0	2	(1) 10	(-1) -8	(2) 20	(1) 20	(1) 0	(2) 22	(2) 30	-8
早島町	(1) 57	64	(1) -7	0	0	0	7	10	-3	(1) 64	72	(1) -8	(1) 71	82	(1) -11
里庄町	35	24	11	0	1	-1	4	0	4	36	32	4	40	32	8
矢掛町	24	13	11	0	1	-1	5	4	1	22	9	13	27	13	14
新庄村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鏡野町	8	14	-6	0	0	0	2	5	-3	7	11	-4	9	16	-7
勝央町	15	13	2	0	0	0	1	0	1	20	14	6	21	14	7
奈義町	10	6	4	1	1	0	2	1	1	7	7	0	9	8	1
西粟倉村	0	(1) 2	(-1) -2	0	(1) 1	(-1) -1	0	1	-1	0	2	-2	0	3	-3
久米南町	22	18	4	0	1	-1	5	6	-1	22	15	7	27	21	6
美咲町	11	24	-13	1	1	0	4	6	-2	7	23	-16	11	29	-18
吉備中央町	7	8	-1	0	0	0	1	4	-3	6	4	2	7	8	-1
合計	(49) 4,869	(58) 5,161	(-9) -292	60	(3) 49	(-3) 11	(8) 597	(7) 658	(1) -61	(59) 4,892	(64) 5,158	(-5) -266	(67) 5,489	(71) 5,816	(-4) -327

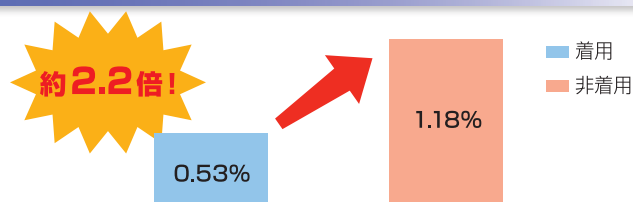
※()内は、高速道路・自動車専用道路での事故における件数及び死傷者数を内数で示す。

シートベルト致死率



※ 致死率＝死者数÷(死者数＋重傷者数＋負傷者数)×100
 ※ 致死率については、10年間(平成27年から令和6年まで)のデータを基に算出。
 ※ シートベルトには、チャイルドシートを含む。

ヘルメット致死率



※ 致死率＝死者数÷(死者数＋重傷者数＋負傷者数)×100
 ※ 致死率については、10年間(平成27年から令和6年まで)のデータを基に算出。

自分の命、大切な家族の命を守るために

シートベルトの着用は、命を守るために非常に有効です。シートベルトを着用することで、致死率を20分の1以下に減らすことができます。シートベルトは運転席、助手席だけでなく、後部座席でも着用しなければなりません。直近10年間においては、交通事故で亡くなったシートベルト非着用者の人数は、助手席より後部座席の方が多くなっています。ドライバーの方は、自分だけでなく、同乗者全員にシートベルトを着用させるようにしましょう。

併せて、ヘルメットの着用も、命を守るために非常に有効です。直近10年間において、自転車乗用中の交通事故で亡くなった方のうち約4割が頭部を損傷しています。ヘルメットを着用することで頭部の損傷を抑え、致死率を2分の1以下に減少させることができます。交通事故で大けがをして後悔することのないよう、自転車に乗る際は、必ずヘルメットを着用しましょう。